

共益法人 ベルリン中央学園補習授業校だより

菩提樹

(リンデンバウム)

二〇一一年度第一号

通算第四十二号

発行
ベルリン中央学園
補習授業校編集
『学園だより』
委員会発行日
2011年6月17日

バイリンガルとは？ 子どもの言語発達

二〇一一年三月三十一日、在独日本国大使館後援をいただき、同館多目的ホールにて、相賀由美子先生による講演会が開かれました。テーマは「本当のバイリンガル教育」複数言語環境の子どもたちのために親ができること」本校の保護者だけではなく、多言語環境で日本語を学ぶ子供の教育に興味をお持ちのたくさんの方々がいっぱい参加しました。

大まかな講演内容は、多言語間で生活をしている子供たちの脳は、一言語間で生まれ育った子供とは違う働きをしていること。そして、言語を習得する過程も異なっている。そのことを私たちはよく理解しその時そのときに必要な接し方を心がけることが大切である、というものでした。

当日、質疑応答の時間を設けましたが、時間の都合上十分なものは言えませんでした。そこで、ベルリン中央学園補習授業校の保護者の中で講演を聴きにいらしていた方の中から三名に、相賀先生の講演を聞かれたの感

想・質問を書いていただきました。質問については、次号で相賀先生にお答えしてもらいます。

相賀先生の講演を聞いての感想・質問

幼稚部保護者 ヘーネル 八恵

相賀先生、並びに関係者の方々、この度は、素敵な講演会を開いて下さって、本当に有難うございました。講演会で偶然会った、ドイツの大学で言語学を専攻していた友人は、学んでいた事を初めて母国語（日本語）で聞けてびっくりしたと、感動していました。私も、訳書が無い為、幼児教育書等をドイツ語や英語で読む事がありますが、残念ながら大まかな内容は理解はできません、心に残り人に伝えられるのは、やはり日本語の書物を読んだ後なのです。ですから、我が子には、将来得意とする分野を、どちらの言語の書物でも十分理解しその道を極めていく欲しい、と願っていましたので、聴講後、高校の教科書が読解できるレベルまで、我が子の日本語教育をサポートしよう、と保護者として新たな目標ができました。

そこで、ドイツ生活における日本語外来語について、質問があります。例えば、ブレーチェン、ラウゲンシュタンゲ、プレーツェル等多種類のパンの名前を、ドイツ語発音そのまま使うのか、また、シュバーツブロート、モーンブロートのように黒パン、芥子の実パンと、訳せそうな物は、訳した方がいいのか等、とパン屋の前の我が子との会話は、いつもそんな些細な事が頭を過ります。以前、英語圏に住んでいた頃は、既に日本でも外来語として使われている名詞が多々あったので、気にした事はありませんでしたが、当時、ピクアップして（迎えに来て）、クリーンアップしよう（片付けよう）等、と動詞までも日本語に混ぜて使っている言葉を初めて耳にした時は、さすがに違和感を覚えました。例にあげたパンの種類だけでなく、今後ドイツ生活も長くなると、このような疑問が少なからず時として出てくると思うので、そのような場面では、どんな事を基準にして日本語に置き換えていけばいいのか、何か注意点等あれば、教えて頂きたいものです。

幼・小学部保護者 池田 佳奈重

相賀先生の講演会では、多言語環境で育つ子供の親として知っておきたい事、普段から疑問に思っていた事に対する答えやヒントが凝縮された非常に貴重なお話を聞かせていただきました。

その中でも特に私が疑問に思っていたのが、子供達はどうのように多言語を頭の中で整理しているのか、そして多言語の吸収を助ける為

に親には何が出来るのか、ということですが、相賀先生の講演の中で、その方法が説明されました。例えば二言語(ドイツ語と日本語)環境で育つ子供は、一つの単語を五つの要素(その言葉の意味、ドイツ語を聴覚と視覚から取り入れた要素、日本語を聴覚と視覚から取り入れた要素)でインプットしているということです。そして子供達が言語をインプットし始めてからアウトプットし始めるまでの期間を「沈黙期」と呼び、沈黙期の期間は子供のペースによって様々であるということです。そしてこの沈黙期に浴びせる言葉の量は、多ければ多い程良いということです。なぜなら子供達がインプットする量は、私達親が決めるのではなく、子供達が無意識に彼ら個人のペースで可能な量を随時インプットしているのです。例えば日本語の量を減らさないと負担になるのではないかと親が考え、浴びせる言葉の量を調整する必要は無いのだということですが。(実際私もこのように考えたことがあります)それよりも子供達にインプットする機会を多く与える為に言葉のシャワーを出来るだけ多く浴びせ、また子供達がアウトプットする機会を多く作ってあげるために、話し出せる環境を整えてあげることが重要だという事です。また、子供が言葉を間違った形でアウトプットした時、それはインプットしている過程にあるが為に出てくるものなので、頑なに否定して言い直させるのではなく、正しい言葉を親が聞かせて補ってあげること、それによって子供達は肯定的に言葉を確認していくのだということです。

私は特にこの沈黙期について相賀先生に質問をしたいと思えます。

一、個人差があるのは理解していますが、それでもこの沈黙期に、子供が本当に言葉をインプットしていつているのかどうかと不安になることがあります。親は子供がインプットしていると信じ、子供がアウトプットをし始めるまで待つしかないのでしょうか? しっかり「沈黙期」であることを調べる方法はあるのでしょうか?

二、また、そのインプットの方法に個人差や問題がある場合はあるのでしょうか? 例えば、先ずは一つの単語をドイツ語のみでインプットしていた場合、後から日本語の要素が追加される際に、この五つの要素のバランスが上手く保たれずに崩れることはあるのでしょうか? もしくは最初からドイツ語の要素が強く、日本語の要素がしっかり入っていかないといったような場合はどうすれば良いのでしょうか?

三、五つの要素がバランス良くインプットされるのは平均として何歳くらいまでなのでしょう?

子供達の為に、親が子供達の状態をしっかり把握してあげることが重要だと思います。その為にも、相賀先生の意見やアドバイスを頂ければ幸いです。

幼・小学部保護者 渡辺 洋美

我家は日本人家庭で、家庭内では日本語が基本ですが、兄弟間(小六・小三)の会話は、一〇〇%ドイツ語というのが現状です。夫はその都度日本語で話すように言いますが、効き目は僅か数秒、あつという間にドイツ語に戻ってしまいます。親との会話以外はドイツ語生活ですので、これも仕方ないと諦め半分、でも、日本語学習は出来るだけ早くという考えの下、小さい頃から少しばかり熱心にやってきましただけに、もう少し何かならないものかと思う気持ちもあります。

特に長男は、毎週出される宿題が負担。自主性に期待して親が放っておけば宿題も放ったまま。ならば「分からないものは持つておいで」と言えば、「全部分からない(本音は課題を読むのも面倒)」と答える始末。結局一緒に宿題を広げることになります。でも、日頃はうるさいと思っているであろう母親に、例え丸投げであろうと宿題を持つてくるのですから、今はまだこうしていすを並べることが出来ますが、これも多分あと数年。そのうち「うるさい」が「うざい」に変わり、口数も少なくなり、宿題はおろか、親との会話すら一言二言といった難しい年齢に差し掛かることでしょう。更に残念なことは、仲のいい友達次々やめていくのも、日本語学習のモチベーション低下に繋がっている様です。

子供の成長に伴い(特に中高生)、彼等の中で日本語の価値がどのように変化し、また親がサポートしていくべきことは何か、御教示頂きます様お願い致します。

家庭学習における工夫

今回も保護者の方々のご協力を得て、どのような工夫で子どもたちの日本語への意欲を失わないよう、多岐に渡る宿題をこなさせているかを、インタビュー形式でお尋ねしてみました。今回は小学生低学年で、宿題の取り組みに保護者の方の工夫が顕著に見られる、二家族の保護者の方々にご協力頂きました。

Ⅱ 保護者 A Ⅱ

家庭環境は、お父様が日本語が話せるドイツ人、お母様は日本人で日本語教師の三人家族、ご両親の日本語を聞ける環境で育つ。まず、宿題を行う際には、次の五点に留意されている。

- 一・母子で一緒に行く。
- 二・楽しい時間になるようにする。
- 三・宿題は行うだけでいい、というものではない。
- 四・宿題は先生に提出するから、行うものでもない。
- 五・母親が、午後疲れていては宿題をこなせないの、要注意。

特に、子どもへの環境として大切にされているのは、学校から帰宅して、しばらく休憩させる事、多くのことを学校で吸収してくるので、大変疲れている。よりよい学習環境は時間の余裕が何よりも大切だと、お子さんを見て感じられている。

「宿題へのアプローチだが、「全部仕上げて当然、行った全ての宿題は、まず母親がチェックし、先生には、それをお見せするだけ。」という形で臨んでおられる。

小学二年生の定着宿題は、音読、カルタ、視写、それに加え、一学期間は「今週のニュース」が出されるが、まず視写を登校前に行わせ、バランスの悪い字は消して、お母様が薄く書き、午後になぞらせるといった工夫をされている。また、「今週のニュース」のテーマも一緒に考え、テーマを楽しく探される。毎週持ち帰る宿題の意図は、宿題に同封される教師からの連絡や、教科書を参考にし、宿題で気づいた事をメモして、後でインターネットで一緒に調べる。お母様はその金曜日のうちに子どもの宿題をチェックし、一週間で行わなければならないことを頭に入れて、水・木は漢字テストの練習程度で済むよう、土日月火でどのように行わせるかを計画される。

しかし、お母様曰く「学校で聞いたこととは、家庭でどれだけ楽しく工夫しても比較にならないほど、印象が強く残る。」というのも、強く領けるところだ。

Ⅱ 保護者 B Ⅱ

このご家庭は、お父さん、お母さん共に日本人である。そのため、家庭内での会話はほぼ日本語である。お子さんは、日本で生まれ育ったが、小学校からドイツの学校に通っている。

○ 漢字は筆ペンで書く

宿題になっっている漢字のお手本を、筆ペンを使って書くことで、はね・とめ・はらい等を意識させる。はらいにも、小さくはらいもの、思いつきりはらいものなど、違いがあるが、それらを認識させることにもつながる。その成果は、漢検にも表われ、前回の漢検のはね・はらいに関する問題は非常に正解率が高かったとのことだ。

○ 子供が夫婦間の会話を聞いて、言葉に関して質問してきた時

夫婦間の会話を子供が聞いていて、「お母さん、今のその言葉どういう意味？」と聞いてきたときの対応。その言葉が、ドイツでなかなか目にしないようなものや様子を表わすものであった場合、このご家庭では、インターネットを使って写真やビデオを見せるようにしている。映像として頭に入れることで、印象を残し、言葉の定着をはかっている。

○ 子供が日本語の文にドイツ語の単語を混ぜて話している時

家庭内の会話が日本語であったとしても、ドイツの学校に通っている場合、多くの新しい言葉をドイツ語で学ぶことになる。そのため、「今日学校で音楽のウンターリヒトがあったよ」などと子供が話す場合も多いだろう。その際に、このご家庭では、「ああ、そうなんだ」と内容がきちんと伝わったことをしっかりと示した上で、「ウンターリヒトは日本語で何て言うか知ってる？」とたずね、もう一度日本語の言葉を使って同じ文を言わせるようにしている。

○音読の際に、声の変化や動きをつける

音読を一緒にする際に、登場人物によって声を変えたり、劇のように動きをつけたりすることで、子供を楽しませるように意識する。小さいときからの読み聞かせにおいても、同様な工夫をされていたそうで、音読を子供が楽しんでやっているということだった。

○ボリユームのある宿題は土日に、それ以外は毎日一枚ずつ

書く宿題など、時間がかかるものは週末に、それ以外の漢字練習・視写・授業内容を復習するワークなどは、一日一枚はやるようにする。「宿題を一枚やったら、テレビを見ていいよ」などという声かけをする。

○一緒に勉強する

「宿題をしなさい」と何度も言っても、なかなかやってくれないこともあるだろう。そんなとき、「お母さんも一緒に勉強するからね」と言って、隣に座り、ドイツ語の勉強などをするようにする。すると、子供も一緒にやって、宿題に取り組むことがあるという。

補習校での学習は、週一回と大変少ないものである。そのため、日常生活の中でのちょっとした工夫が子供たちの日本語力を上げることに大きく関わっていると、決して過言ではない。

それぞれの家庭によって、言語環境は異なっているわけだが、情報を共有し合うことで、子どもたちにとって、より充実した日本語環境を作っていけたら幸いである。

新任教員のご挨拶

幼稚部にここに組担任 菅田 珠貴

日本では、幼児教育や小学校教育における表現運動(ダンス)教育に関わる仕事をしていました。結婚を機にベルリンに渡り、息子を育てる日々でした。息子は私とは興味関心が異なり、こちらの働きかけに対して返ってくる反応に、戸惑うことが多々ありました。それでも、一緒に楽しく遊びたいという気持ちから、色々と工夫して遊んできました。

これらの経験を生かしたいと思い、中央学園に応募し、昨年十月からここに組を担当しています。授業では、様々な遊びを行います。保護者の方は、お子さんが遊んでいる姿を観察したり、一緒に遊んで反応をみる等しながら、お子さんがどんなことが好きで、どう関われば楽しくなるかを発見してみてください。他のお母さんやお父さんが、どのように関わっているかを参考にするのも良いですね。ここに組では、子どもが「日本語で遊ぶのは楽しいね、だって、お母さんやお父さんと一緒に遊べるんだもの!」と思えること、つまり、親と子の絆が日本語で結ばれるお手伝いをしたいと思います。子どもは、お母さんやお父さんの歌声を聞き、抱っこされ、ふれあい、一緒に遊んでもらえれば日本語で遊ぶのは楽しいと感じると思います。残念ながら授業は週に一度です。授業は試してみる場、ヒントをもらう場と考えて、ご家庭で、授業の内容を膨らませて遊んで下さい。

また、育児には悩みが付きものです。保育士の経験が豊かなヘーネル先生が、育児相談を受けて下さいます。ここに組の授業を、保護者の方々、ヘーネル先生と連携しながら、作って行きたいと思っています。

小学部補助 花村 七重

この度、二〇一一年度より教員として勤めさせて頂きたく、花村七重と申します。小学一年の担任補助を担当し、二学期以降のここに組(クラス増設の場合)の担任を予定しております。

中央学園との出会いは、約二年前、学園に通う児童のベビーシッターをしたことがきっかけでした。初めて訪れる場所です少緊張気味だった私に、お母様方や子ども達が「こんにちは」と声を掛けてくれました。歌の時間では、子ども達にも負けない程に明るく元気な先生方が、汗をかき歌い踊り、まさに体を張って日本語特有の物の数え方を指導していらつしやいました。こうした中央学園の第一印象はとにかく「元気」。子ども達のきらりとした笑顔に出会い、気さくなお母様方とお話をしたりして、いつの間にか私自身が学園に通うのが楽しみになっていました。これは帰り道にいつも「元気」のおみやげをもらっていたからかもしれません。

教員になり、この元気の源には数々の努力や支えがあることに気が付きました。子ども達は毎週の宿題や授業内での課題を一生懸命にこなし、その達成感から湧き出る「できた!」「終わった!」という歓声、溢れ出る笑

顔。授業・行事の準備に時間を費やし、熱心に取り組まれる諸先生方。常に子どものことを第一に考え、学園運営を支えて下さる保護者の方々や理事会の皆様…。

私もこの中央学園に携わる一員として、日本語学習を通じて子ども達と共に学ぶ楽しさ、喜びを分かち合い、元気のキャッチボールをしていけたらと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

児童・生徒の作品

二〇一〇年度卒業生のことば

小学部卒業生

「忘れられない出来事」

合宿

山尾 琉那

小学校生活を振り返ってみると、忘れられない出来事が本当に数多くありました。その中でも特に思い出深いのは、合宿です。そして、一番楽しかったのは、六年生最後の合宿でした。なぜなら最後の合宿は、学校で行われ、その後宿泊所に移動するという初めての形だったからです。

土曜日に学校に集合しました。その後は、いつもの合宿の形でした。このときに私は、

佐藤理紗ちゃんとリーダーになりました。その後授業に入り、劇の練習をしました。私たちは、狂言の「附子」でした。これは古いコメディーみたいなものですが、私にとっては、難しかったです。なぜなら、色々古い言葉があったり、声の出し方も変えなければならなかったからです。

お昼には、日本食のお弁当を食べました。から揚げが一番美味しかったです。

劇練習が終わり、晩ご飯を食べた後に、ゲームをしました。私が一番気に入ったゲームは、「服装モニタージュ」で、とても楽しかったです。

そのあとには、また律ばあさんが来てくれました。そしてまた怖いお話をしてくれました。すべて終わったあと、また宿舎に行き、私は同級生の有理、メラニー、理紗ちゃんと杏奈ちゃんと同じ部屋でした。

次の朝には、七時に起きて朝食を食べ、その後二日目の授業のために学校に戻りました。そして、また劇の練習をしました。夕方には作文を書き、お父さん、お母さんの前で読みました。

なぜ一番印象深く残ったかという点、小学校生活最後の合宿だったからでもあります。

この合宿は、本当に楽しかったです。

運動会

ゲルマー・メラニー

学校の行事の一つに、運動会があります。運動会は、ドイツの学校と違って、白、赤組

の二チームに分かれて競います。お友だちを連れて行っても良かったので、私は、ドイツ学校の友だちの、ゼンフィーラとスベアを連れていきました。

私はなぜか、毎年白組でした。競技の中で、一番好きだったのは、赤と白のカードを裏返す遊びです。みんなで必死になって、白いほうに裏返ししました。けれども、白組は毎年負けました。

運動会は、六年間の楽しい思い出です。

小正月会

小林 有理

私は、小正月会についてお話したいと思います。

カルタとり：私は、カルタとりがいつも苦手でした。るなは、いつも前に取ってしまいました。だから、私は「カルタとり大会」では二枚のカルタくらいしか取れませんでした。すもう：私はすもうに参加したことはありません。でも、本当は一回すもうをやってみたかったです。いつも見ていただけでした。もちつき：前には、いつも私のお父さんがもちつきをやっていました。それは私にとって、すごく恥ずかしいことでした。なぜなら、私のお父さんだからです。今年は違う人がやってくれたので、ほっとしました。

私たちは、こんな六年間の楽しい思い出をもって、卒業します。

中学部卒業生

ミスターチルドレン「ギフト」にのせ、中央学園の行事の写真を背景に映し出して、この卒業の言葉が、卒業生から在校生に贈られました。テーマは、「中央学園・皆の場所」です。

ありがとう

内山 亜門

ありがとう

いろんな思い出をくれて

ありがとう

自分ができると言ってくれて

ありがとう

私を支えてくれて

今までの時間

ありがとう

深い深いきずな

作ってくれて

ありがとう

このいろんな

贈り物をくれて

ありがとう

これからもよろしく

おねがいします

新しい人生が広がるため

ギンター・ソフィー

生きている楽しさ

思い出を集め
木が育つ

笑いを探し悲しさを消す
走り出せばいい

言葉を学び

幸せを感じ

涙を流し

夢をつかみ

輝くように

みんなががんばる

辛い思いがあっても

道を作ってみて

前に進んでみる

希望を持ち

この世界を少しでもいい場所にしよう

中央学園、みんなの場所

特別

ザイツ・アンナ

中央学園は、私が三才だった時から、いつも私の生活の一つだった。子供の時の金曜日、楽しい思い出がたくさんある。今の思い出も、わたしはできるだけ覚えていたい。みんなといっしょに難しいテーマについて考えていたこと、友だちと笑ったこと、みんないっしょに歌ったこと。

勉強するための他に、私が中央学園に行く理由がある。中央学園は私にとって、ドイツの学校とは違う雰囲気だと思う。そこでは、日常生活の問題を忘れることが出来る。そこでは、だから、中央学園は、私にとって特別だ。

高等部卒業生

卒業の言葉

富久 真澄

私は、今ここにいる生徒達に比べると、中央学園に在籍した期間はそれほど長くありません。数えてみると、たったの一年と五カ月でした。

日本語補習校に通うことにしたのは、ドイツ生活を始めてから一年半もたった後で、本当に突然だったのですが、卒業を迎え、改めて、入ってよかったと心の底から思います。

他の先生方にも言われましたが、私自身、この学校には何年も前から通っているような気がします。それほど、アットホームな雰囲気を感じ出す中央学園が、ここに通うことを決めた理由の一つです。

通い始めてまず気付いたのは、先生方が本当に親身になって授業をしてくれることです。例えば、小論文は、一人ひとりの目的に合った課題を出し、丁寧な添削を経て、書き直しをし、再度添削、書き直しをして良いものを作り上げます。また、私が時事問題もしたいと言えば、次の週の授業から新聞の記事について調べてくるのが宿題になっていました。時には、私だけしか出席しない授業もありましたが、だからといって手を抜かず、逆に個人授業だとはりきる先生方が、私は大好きです。

もうひとつは、先生方や生徒達、さらには保護者の方まで、みんなが強烈な個性を持っていることです。さすが外国で生きているだけあるなあと思ったほど、ものすごくパワーを感じます。最初はその強烈な個性に飲み込まれそうになりましたが、私も徐々になじんでゆくことができました。特に、先生方は、ドイツ生活が長いこともあり、会話のところでころに死語、例えばOK牧場・わかつた？などが出てきて、忘れかけていた日本語を取り戻すだけでなく、私の笑いのツボをことごとく刺激しました。また同じ年頃の友達が出てきたことで、毎日がより楽しいものになりました。ドイツの学校でのコンサートや剣道の試合に招待してもらえ、なぜか雪の日にソフトボールをしないかと誘われたこともありましたが、ボールが雪に埋まりできなかつたの言うまでもありません。勉強の面では、授業の中で、ドイツと日本について比較する際に、討論好きな彼らから学べるのが数多くありました。アットホームな中央学園では学年の差関係なくみな仲が良く、私もちやっかり仲間入りを果たせたことをうれしく思います。

インターナショナルスクールの卒業試験が近づくなか、中央学園は私の日々のストレス発散をする場になりました。学校だけでなく、大学の悩みを先生に相談したり、たまには仲間と共にラーメンを食べに行ったり、お泊まり会をしたり。家では、日本のテレビが見れなくて退屈しても、ここにくれば吉本のような先生方の会話を聞くだけで元気が出ました。

本音を明かせば、五月に卒業試験を迎え、六月末に無事に大阪に帰れても、地獄のような大学受験が待ち構えているだけなので、まだまだベルリンに残っていたい気持ちでいっぱいです。しかし、卒業した今、先生や仲間から学んだことを発揮し、早く成果を報告したい気持ち芽生えてきました。おそらく日本に帰ってしばらくは第二の故郷を懐かしみ、受験への不安は募っていく一方だと思いが、ここで鍛えられたことや先生や仲間のエールを思い出しながら乗り越えていこうと思います。本当にありがとうございます。



国際部卒業生

卒業の言葉

佐藤 理紗

小栗先生はとてもやさしくておもしろい先生です。私は小栗先生が大すきです。わかりやすくおしえてくれてありがとうございます。長谷川先生はやさしくてたのしいです。いろいろなことをぜんぶせつめいしてくれました。いつもビンゴをしてくれてありがとうございます。

安部先生はやさしくてじょうだんを言う先生です。わからないことばをおしえてくれてありがとうございます。

岡坊先生はやさしくて、ちよつとひょうきんな先生です。たくさんわらいました。げきのかんそうをかくとき、私はぜんぶドイツ語でかきました。岡坊先生がドイツ語のテキストをやくしてくれました。うれしかったです。ありがとうございます。

小栗先生へ

岡崎 タニヤ

小栗先生はやさしくて、面白くて親切です。信頼もできます。くじけそうなとき、小栗先生に励まされるとがんばれます。小栗先生にも悲しいときがあると思います。でも、いつも私達には明るい顔を見せてくれます。一番最初に会ったとき、やさしそうな先生だなと思いました。その時から小栗先生は私の一番好きな先生です。

私はこの学校に九年くらい通っています。その間に小栗先生はたくさんのお話を教えてくださいました。言いたいことが日本語で言えないときはドイツ語で言わせてくれました。今でも覚えていることがあります。小栗先生の名前を私は正しく言えませんでした。きちんと教えるようになるまで小栗先生はやさしく教えてくれました。

今まで良いことばかり書いたので、悪いことも書こうと思いました。でも、いくらさがしても見つけれませんでした。

小栗先生、本当にありがとうございました。

海外子女教育振興財団主催

第三十一回海外子女文芸作品コンクール

ベルリン中央学園からの入賞作品

(学年は応募時のものです。)

《詩部門・学研エデュケーションショナル賞受賞》

戸隠で見た木

中学二年 小泉 李佳

木の中に大きい穴がある
人が木の前であつまる
木に穴があいていても
死んでいない
人間の心に穴があいても
死ななくても いい
あきらめなくても いい
だから
人が木の前に立ったり
中に入ったりして
人間に穴があいても
あきらめないように
自信をもらう

《俳句部門・佳作受賞》

小学二年 ギュンター・ルイーゼ

クリスマス

たくさんもらった

プレゼント



第一回校内作文コンクール

各部門第一位の作品

(学年は実施時のものです。)

《小学低学年部門》

おじいちゃんへ、おばあちゃんへ

小学二年 渡辺 賢人

おじいちゃん、おばあちゃん、お元気で
か。ぼくは元気です。ときどきでん話で話
もしますね。おじいちゃん、おばあちゃん
とは、夏休みに会いましたね。「とんき」とい
うとんかつやさんに行きましたね。大きなエビ
フライが二本も出てきて、ぼくは、とつても
うれしかったです。ぼくの大こうぶつがエビ
フライだということ、そして、このおみせに
は、とく大のエビフライがあること、それを
知っていて、ぼくをつれて行ってくれたんで
すよね。ありがとうございます。

ぼくは、本とうは、おじいちゃんとおばあ
ちゃんに、ぼくの小学校を見せてあげたいの
です。ぼくが、小学校でべんきようしたり、
お友だちとあそんでいるところを、見てもら
いたいのです。

だから、おじいちゃんのびよう気が、早く
よくなるようにおいのりしています。



《小学高学年部門》

日本のみんなに知らせたいこと

小学六年 ゲルマー・メラニー

私は、ドイツの学校のことをみなさんにお
知らせしたいと思います。

九月から、ベルリンのシラーシュレーとい
うギムナジウムに通っています。毎朝六時十
五分に起き、そして、私の一日は、朝食をし
っかりとるところから、私の長い一日が始ま
ります。なぜなら学校では給食がなく、学校
の休みの中で一番長いお昼休みも三十分しか
ないからです。お弁当をもって行きますし、
売店もあるにはあるのですが、お弁当に代わ
るものは売っていません。ですから、私にと
って朝食をしっかりとすることは、非常に大切
なのです。

さて、授業は八時開始です。

一週間で全三十時間の授業があります。語
学は、日本では国語にあたるドイツ語、英語、
フランス語を勉強していますが、十年生から
はイタリア語も勉強しなければなりません。
学校が終わるのは、だいたい十四時三十分ぐ
らいです。それから帰宅すると、私はまず昼
食をとります。その後宿題をしますが、毎日
たくさん宿題が出されます。全教科から出
た時は、最悪です。寝るまで宿題ばかりして
います。クラスの友人は、「私には学校、宿題、
就寝の繰り返ししかない。」と、いつも怒って
いますが、私も同意見です。時々この環境が
嫌になります。

そんな時は、友達と会って話したり、その

ことについて一緒に怒ったりしています。

宿題をしていくことは、後に通信簿で良い点数を取るために必要です。もちろん勉強は通信簿のためだけではありません。いろいろなことが分かり、知識を増やすために必要です。けれども、今は将来のことより、今日の宿題をやりに終えて、先生に叱られないようにすることが大切なのです。この半年で成績が悪いと、他の学校に転校させられるので、一生懸命がんばらねばなりません。だから、とにかく習ったことを暗記しています。

しかしテストで良い点数は、たったの五十%しか考りよされません。残りの五十%は、宿題の提出率と授業中にどれだけ発言をするかがポイントとなるのです。

私は授業中にたくさん発言するのは、大変だと感じます。なぜなら、クラスの多くの友人たちが手をあげている中で、先生に指名してもらおうのは大変難しいのです。あまり静かにしていると、見逃されてしまいます。その上、私はみんなの前で発表するのは、あまり得意ではありません。

でも、私は「それではいけない。」と思い、一生懸命発言しています。将来、自分が何になりたいか、まだよく分かりませんが、何をするにしても積極的に参加していかないと、どこに行ってもうまくいかないと思っています。今は、その練習をしているんだと考え、毎日手をあげています。

私の一日は、このように過ぎていきます。みなさんの一日と私の一日を比較すると、さでどうでしょう。日本の同じ年齢の人たちがどのような一日を過ごしているのか、とて

も興味があります。いつかまた教えてくださ

《中学部門》

日本とドイツの公共機関について

中学二年 ベルクマン・フェリクス

ベルリンや東京で出かける時、ほとんどぼくは、公共機関を使います。ある日、ぼくはドイツと日本の公共機関のちがいを考えてみたいと思いました。

最初に予想したのは、日本の公共機関がドイツの公共機関より良いということでした。なぜなら、日本にはスイカやパスモ、改札口などがあるからです。日本の公共機関が便利だと思います。

調べ始めて、まずは、バスを比べました。ドイツのバスは、ほとんどがバリアフリーです。バリアフリーということは、車いすに乗っている人もバスを乗れるようになっていくということなんです。日本では、車いすのシンボルがついているバスだけがバリアフリーです。でも、日本には、パスモやスイカがあります。スイカやパスモが何なのか知らない人がいるかもしれないので、今から短く説明します。

スイカやパスモはカードで、あらかじめ、お金をチャージします。その後には、チャージした分、電車やバスに乗れます。そういうカードを持っていれば、きっぷを買わなくても、改札にあてるだけで、改札口を通ることができて、非常に便利なものです。でも、そ

のカードをなくしたら大変だという考え方もありますが、千円や二千円ずつチャージしておけば、そんなに大変ではないと思います。つぎに、地下鉄について考えてみました。日本の地下鉄の駅には、ナンバリングがあります。ふつうの日本人だと、特に気付きませんが、外国人には、そのようなナンバリングは助かります。駅の名前は、英語ができない場合もあるでしょう。

ドイツの地下鉄には、ナンバリングはありませんが、地下鉄線自体には、数字がついています。

つづいて、改札について考えてみました。日本の駅には、必ず改札口がありますが、ドイツに、全くありません。その理由で、不正乗車がたくさんあります。ですから、改札口がドイツにもあったほうがいいと思います。

それに、ドイツの地下鉄は、新しい線以外には、音のアナウンスしかありません。でも、日本には、全車に音のアナウンスと映像の案内があります。それは非常に便利だと思います。

まとめると、ドイツと日本の公共機関は、似ている所とちがう所がたくさんあります。両方の良い所を合わせたら一番良いと思います。具体的にいうと、日本の地下鉄駅のナンバリングや改札口をドイツの地下鉄線のナンバリングとたしたら、一番良いと思います。



《高校部門》

個人主義の真のあり方

高校三年 富久 真澄

「人それぞれ」という言葉は、異なる立場の人の意見を尊重し、かつ自分の意見も認めさせる魔法の言葉だ。議論をしても、この言葉があれば、誰も意見のぶつけあいによって不快な気分になることはない。しかし、互いに異なる立場の意見に深く耳を傾けないのでは、活発な議論は望めない。中立的な立場を求めるとは、なく、「人それぞれ」だからこそ、なぜ自分とは意見が違うのか、相手を深く追求し、あるべき社会の姿を模索する努力が求められている。

私も、筆者の意見に賛成である。表面だけの議論では、議論する意味がない。そして、そのような教育が蔓延している日本に改革を起さなければならぬと思う。私が、日本にいた頃は、学校の授業で議論という議論をしてこなかった。あつたとしても、先生が「そういう意見もあるね。」といって深く追求せず、次の人に移るので、聞いている私も「へえ〜」くらいにしか思わなかった。しかし、ドイツのインターナショナルスクールに移ってからは、毎日議論がある。そこで気付いたのは、「へえ〜」と聞き流す人がほほいしないことである。「私はこう思う」と言えば「なぜ？」と聞き返し、相手は理由を述べる。その後「自分はこの意見だ」と言い、理由も併せて述べる。その繰り返しで、最終的には相手の意見に賛成するようになったり、自分の意見

に相手の意見を織混ぜたりする。実際には、相手が話し終える前に、反論し始め、喧嘩のようになるのだが、議論を終えた後にはお互いすっきりとした顔をしている。自分の言いたいことは、はっきり言い続けるのがポイントだ。

私も、最初の頃は「また始まった」とわずらわしく思っていたのだが、発言を重視する教育なのでいつまでも黙っているわけにはいかない。そこで、試しに発言しようと思った時、重大なことに気付いた。それは、自分の意見を持っていないことである。今まで、日本の学校で意見を述べる、又は議論する経験が極端に少なかったため、自分で考える力がつかず、何を言えばいいかわからないという事態に陥った。しかも、相手は発言重視の教育を受けてきたいわば議論のエキスパートである。そこで、私が取った手段は、まず、事前に情報を集めることである。知識がなければ、どっちの立場に立つかも決められないし、反論する材料もない。情報なら、インターネットを使えばすぐに手に入るし、時間があるなら本を読むこともできる。次に、仲の良い数人の友達と議論の練習をすることだ。大人数だと緊張するし、自分の意見をたくさん述べるためにも少人数の方がいい。最後に、普段から何気ないことに注意を払い、自分で考えてみることである。新聞やニュースなどが最適だ。

現在の日本の教育制度では表面的な議論しか学べない。社会に出て、特に世界で活躍しようとしても、「人それぞれ」の考え方が、自分の意見を突き通せないことにつながり、一

方的な議論になってしまいうだろう。個人主義とは個人の自由を尊重しているわけだが、意見の対立をするなど言っているわけではない。対立から相手を深く追求し、議論していくことが大切なのである。つまり、他者があってこそ本当の自分を見い出せるのだ。それに、私の学校のように意見が対立しても、議論の後にはわだかまりができることはまずない。むしろ、議論の後に、百人いれば百通りの考え方があることを実感することができるのである。日本の教育制度は、外国の発言重視の教育から、自分の意見に相手の意見を織混ぜたりする議論の仕方の大切さを見習わなければならない。まずは、生徒に知識を蓄えさせ、少人数の議論からスタートし、日々考えさせる努力を経験させなければいけないと考える。

行事あれこれ

卒入学式

幼・小学部保護者 坂井 香が里

行事やイベントが好きで我が家は去年の卒入学式も参観し、先生の温かい言葉と子供達の立派な姿に私はすっかり打たれました。そしてもう一年があつたという間に過ぎ、我が子もきりん組を無事終え、二〇一〇年度卒業式・二〇一一年度入学式の主役の一人に。会場に集まった子供達は普段よりもちよつとおしゃれをして、照れくさそうにいました。が、いつものようにちやかし合いながらクラ

スの結束感を強く感じさせました。物心がつく頃から中央学園に通っている子供達は、ここで日本語とふれあい、単語や日本文化への知識を築き上げ、ぬりえや工作で手の力を鍛え、ついにひらがなの読み書きを達成して小学校を迎え、小中高を卒業する子供達はその成果をさらに伸ばして今日までたどり着きました。この長い道のりを乗り越えられたのも、頼もしい先生方と、子供なりの苦勞を分かち合える仲間達のおかげだと心から思います。その仲間達と共に表彰状を受け取り、これからの目標を発表し、ずっと見守っていてくれた先生方のお話をじっと聞いています。ピカピカの一年生は大きな成長を見せてくれました。そして自信を持って将来への想いを語るお兄さん、お姉さんの姿は本当に輝いていました。客席を見回すと、先生や理事長の涙につられハンカチで目を押さえている親を何人も見かけ、親同士の間でも不思議な結束感が生まれているのを私は嬉しく思いました。中央学園で全面的に受け入れられるからこそ、我が子はドイツ社会の中でありのままにいられるのだと改めて感じます。そんな環境を築いて下さる先生方に心から感謝致します。

幼稚部遠足

幼稚部保護者 株木 洋子

Britzer Garten への幼稚部遠足当日は、お天気が心配されましたが、時折見せる日差し、の強い青空の下、子供達は元気に遊び、走り、笑顔いっぱい楽しんでました。

我が家の三歳の息子は、場慣れするまでに多少時間のかかる子で、案の定当日も私にしがみついて「イヤだ！やりたくない！」の連発。普段の補習校の授業とは違った雰囲気と、大勢の子供達に最初は尻込みしていましたが次第に慣れ、時折駄々をこねながらも、元気に参加することが出来ました。

一日を通しての感想ですが、皆で楽しそうにゲームをする姿、一生懸命にカルタとりをする姿、先生方の紙芝居に張り付くように聞き入り、そしてなんとも嬉しそうに紙芝居を聞いている子供達の姿、輪になって楽しそうに歌う姿は、なんとも微笑ましく、子供達皆が生き生きとして見えました。そして子供達の笑顔は何にも勝る宝物だと、あらためて感じました。

感じたことは多々あるのですが、沢山の言葉に記すよりも、遠足の一日を終えての帰り道に子供達から「楽しかった！」の言葉が聞けた時、一日の全てを語っていると思ったことをお伝えするのが一番かと思えます。

最後になりましたが、お忙しい中、遠足の準備をして下さった先生方、本当にありがとうございます。

チャリティーコンサート

小学・高等部保護者 ギュンター 律子

この度の東日本大震災により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

まさかあの美しい東北が、あのような未曾有の大惨事に見舞われるとは、誰が予測して

いたでしょう。同じ日本人であるのに、遠い異国で手をこまぬくだけで何もできずにいるもどかしさ。ほんの小さなことでもいいから、何かをしたい。同じ思いでいた中央学園会員の音楽家が集まり、賛同して下さった理事会、学年会のご協力のもと、今回のチャリティーコンサートが開催されました。

会場探しが難航しましたが、岡坊先生、ボアマンさんに奔走していただき、ラインガウ・ギムナジウムのご厚意で、コンサートホールを無料で貸して頂けることになりました。紙面をお借りして、お礼申し上げます。

また、お忙しい中、素敵なチラシ・ポスターをデザインしてくださった樋口さん、チラシ・ポスターやプログラムの作成・印刷、そして当日の義援金集計と日本大使館への送金などを担当して下さった理事のザイラーさん、岡坊先生、ボアマンさん、シュペネマンさん、早川さん、内山さん、小飼さん、このコンサート趣旨に賛同され、ビュッフェでたくさんのお料理や飲み物をお持ち寄りくださり、販売もして下さった先生方と学年会の方々、細々とした面倒な仕事も快く一手に引き受けて下さった学年会委員長のフェヒナーさん、録音を担当してくださった北村さん、コンサート休憩時や終了後に小さな手で募金箱を持って大きな声で募金を呼びかけてくれたかわいい子供達、休日にもかかわらず越えたいいただいたラインガウ・ギムナジウム関係者の方及び照明係の方、何かお手伝いさせていただきますとおっしゃってくださった会員の方々、素晴らしい演奏をご披露くださった岡坊先生、ボアマンさん、小宮さんご夫妻、片

山さんご夫妻、シーグフリードソンさん、ピアノ伴奏の薬師寺さん、ダダスさん、パムさん、将来を嘱望される生徒代表のボアマン愛子さん、飯吉安奈さん、福島裕也君、そしてご来場くださったすべての方々に、心からお礼を申し上げます。

皆様のご尽力により 集まりました義援金二千二百五十一ユーロ十一セントは、日本大使館を通じて日本赤十字社に送られ、手数料無しで全額被災地に送られます。

今回のチャリティーコンサートが、発起から遅延逡巡することなく成功裏に終わりましたことは、皆様の日本への篤い想いと、一日も早い復興という切願に基づくものであったとあらためて感じております。形は変わるかもしれませんが、今後も皆様と手を取り合っており、末永く支援していけたら、と思っております。

最後に、心の故郷・東北の復興と、被災地のすべての子供達に笑顔が戻る日が一日も早く来ますよう、心よりお祈り申し上げます。

学年会より

学年副委員長 片山 智子

今年度、学年副委員長をさせて頂く事になりました片山智子です。宜しくお願いいたします。四月のチャリティーコンサートでは夫婦デュオ（マリンバとピアノ）で出演させて頂きました。この様な機会を与えて下さった

皆様に感謝致します。ベルリンに来る前はオランダに七年間住んでおり、長女の出産を機に三年程前からベルリンに移り、今は長女紗良がひよこ東組に在籍しております。去年十二月には次女うたが生まれ、こちらもしばらくしたら、中央学園にお世話になる事と思えます。

ベルリン東地区では近年の急速な開発が進み、これから（日本人も含め）もっと人数が増えていく可能性をもった地域です。西側から遠路遙々東側にこられる先生方に感謝しつつ、東西の見えない壁を作らない様に、中央学園をより活性化することに少しでも何かサポートできることがあればと思っております。私事で恐縮なのですが、音楽活動とは別にコーチングというものを趣味で学んでおりまして、数年前アメリカでの講習会に参加した時、たまたまドイツ人で世界銀行に勤めている方と話す機会がありました。彼女曰く、世界で飢えに苦しんでいる人たちの為に（その国に）金銭的なサポートをするのだけれど、結局本当にサポートが必要な人までお金が回らないそうです。その飢えている人たちがいる国の政治、行政が本当に駄目で、下までお金がいかない。本当に必要なのはお金ではなくて（政治家や役人の）教育なのだと。少し話が大きくなってしまいました。私自身もそういう意味でも教育の大切さを感じておりまして、中央学園の生徒一人一人の視点に合わせた教育は私も共感致しますし、先生方の熱意ある授業を受けられる娘達が少し羨ましくもある今日この頃です。

理事会より

理事退任にあたって

理事 小谷 守彦

朝霞み煙る春の休日のテールゲル空港。新聞社のドイツ特派員として、四年間、ずっと旅の出発点だったこの空港が、ベルリン最後の日は、別れの場所でした。

特別な言葉は浮かびませんでした。抱き合うことも気恥ずかしく、見送りに来てくれた何人かと順に握手をしただけで普通に別れましたが、フランクフルトで成田直行便に乗り換え、機首が故郷に向いた後は、涙が止まらなくなりました。

中央学園の父母のみなさま、本当にありがとうございます。東日本大震災の被災者のため、あつという間に実現したチャリティーコンサート、合宿で見た「りつばあさん」の名演技、本当は真剣勝負だった駐独大使との面会、飲み会の余興のような私自身のリサイタルに、たくさんの方々に来ていただいたことも本当に感謝しています。

何かここで教育論めいたことを言えればいいのかもかもしれませんが、子供たちに教育を施そうなどと考えたこともないダメ親にとってそれは場違いです。こんな生き方をしてほしいと、時に応じてメッセージを発信してきましたつもりではありませんが、ふと気づけば、だれも理解していない。そんなのは日本男性特有の悲哀なのかもしれません。

理事会はいつも楽しい集まりでした。雰囲気の良い理事会がいつまでも続くことを願っています。小宮尚子理事長の自宅を借り、月一度、おいしいお茶とお菓子をいただきながら、学園のいろんなことを話し合う。小宮さん、ボアマンさんを始め、メンバーがみな人間的に魅力あふれる人ばかりだったことも、とてもラッキーだったと思います。

ベルリンは大好きな所になりました。一方で、日本の良さも今まで以上に理解できるようになりました。お世話になった皆様と日本かベルリンかで再会することを心から楽しみにしています。

教員会より

今年度四月より、うさぎ東組、ぞう東組が開設されました。この二クラスは今年一年間のクラスの動向を見て、今後も継続的に設置することが可能か、試験的に開設されたものです。

東組開設を受けて、本校から東組にクラス替えをしたいと希望される方が数人いらっしゃいます。通園の便宜などを考えれば、そのご希望も理解できないわけではないのですが、教員会としては、これまで本校に通園可能だった方は、今後も継続して本校通園をお願いしたいと考えております。

その理由として、教育環境の面では、やはり本校の方が行き届く点が多い、ということが挙げられます。例えば、東組には図書室が

設置できません。また、歌の時間のような、他のクラスの多くの子供たちや先生達と触れ合う機会や、より多くの日本語に触れる機会がありません。更に、クラス替えをすることで、子供のクラスでの友人関係など、学習環境が大きく変わってしまいます。

教員会としては、このような教育環境面からも、東組に通園されている方には、いざ本校に通学していただけるよう、お願いしていく所存です。

子供の日本語教育にとって、私たちができることを、今後も保護者のみなさんと考えて行きたいと考えております。

《校務分掌》

校長	近藤 崇子
校長補佐	小栗 つかさ
事務	大井 裕見子
経理事務	レグナー 直美
顧問・評議員	相賀 由美子

担任

きりん組、小学部国語指導、中学部国語指導、漢検八級(二期・四期)、総合IV・V(一期、三期)、総合I(五期) 近藤 崇子

ぞう組、ぞう東組、小一国語、国際部(高学年)、漢検九級(二期・四期) 総合II(一期・五期) 総合III補助(三期) 小栗 つかさ

うさぎ組、うさぎ東組、小五国語、中一国語、漢検十級(二期・四期) 総合I(一期・

三期)、総合IV(五期) 有馬 昌美

ひよこ組、ひよこ東組、小二国語、小六国語、漢検七級以上(二期・四期) 総合III(一期・三期・五期) 岡坊 久美子

小四国語、中三国語、KK漢字・語彙(一期・二期・四期・五期)、総合II(三期) 長谷川 大輔

小三国語、国際部(低学年)、総合I補助(一期・三期) 総合IV(二期・四期・五期) 高木 佐和子

ここにこ組、ここにこ東組 菅田 珠貴

高等部国語 三輪 聖

小一国語補助、漢検十級補助(二期・四期) ここにこ0歳児組、ここにこ東0歳児組(二学期・三学期) 花村 七重

ここにこ組育児相談 ヘーネル 八恵

行事その他担当(参加義務教員、☆は担当者)

幼稚部遠足 ☆小栗、近藤、岡坊、有馬、(補助) 菅田

漢検(六月、一月実施予定) ☆有馬、近藤、小栗、岡坊 (補助) 高木

運動会 ☆長谷川、有馬、近藤、小栗、岡坊、高木(補助) 菅田

合宿(小学部以上) ☆高木、近藤、小栗、有馬、岡坊、長谷川

学習発表会 (小学部以上)

☆有馬、近藤、長谷川、岡坊
(補助) 小栗、高木

学習発表会 (幼稚部)

☆有馬、近藤、小栗、岡坊
(補助) 菅田、花村

小正月会

☆近藤、小栗、有馬、岡坊、長谷川、高木

卒・入学式 (幼稚部始業式)

☆岡坊、近藤、小栗、有馬、長谷川

文集 ☆高木、近藤、小栗、有馬、岡坊、

長谷川 (補助) 菅田、花村、三輪

コンクール作文 国語科担任全員 (☆岡坊)

菩提樹 (一学期企画)

小栗 岡坊
(二期企画) 長谷川
(三期企画)

読書マラソン

☆長谷川

|| 短信 ||

○新年度授業開始、「うさぎ東組」と「ぞう東組」新規開設 (四月四日・七日)

○本校幼稚部始業式実施 (四月五日)

○ベルリン日本語補習授業校入学式に副理事長出席 (四月七日)

○東日本大震災チャリティーコンサート開催 (四月十日) ラインガウオーバーシュレ)

○ベルリン日本人国際学校運動会に校長出席 (五月十四日)

○新規採用講師面接実施 (五月十七日)

○幼稚部「遠足」実施 (五月二十八日)

○「ベルリン婦人の会」出席 (五月二十八日)

○二〇一一年度「定例総会」開催 (六月十四日)

●「第一回漢字検定」準会場として実施予定 (六月十九日)

●「運動会・夏祭り」開催予定 (六月二十五日)

|| 寄付・その他 ||

○書籍・・・坂井 香が里さん (正会員)

○文具類・・・小宮 尚子さん (正会員)

○書籍・・・橘田 みさきさん (準会員)

○紙芝居、書籍・・・入山 薫さん (正会員)

○教育玩具 (ひらがな書き順ボード) ・・・ノラ・ビリティツヒさん (正会員)

○現金 (小正月会運搬費分) ・・・岩井 謙さん (正会員)

○切手シート・・・武田 誠さん (正会員)

○チャリティーTシャツ (Subside Sports) ・・・ジェリー・スミスさん (元会員)

○Tober & Co. GmbH Steuerberatungsgesellschaft Lohnsteuerabrechnung für den Angestellten

皆様方の「厚意に心より感謝申し上げます。

あとがき

中学三年生を送り出すのは、今回の卒業式で二度目になる。昨年の卒業式は、初めて担任したクラスだったという事で、別離の悲しさ、役目を終えた安堵感から、不覚にもしやくりあげてしまった。二年目の今回は、気持ちには少し余裕は出来たが、前日まで練習した「卒業生の言葉」がうまくいか最後まででははらし通しだった。そして、卒業生からのサプライズ花束贈呈で、やはり熱いものがこみ上げてしまった。

近藤校長、そして、小宮理事長の涙。これにはもらい泣きを禁じえない。この二人の涙を見ていると、学園に長い間深く携わってきた人の「絆」が見える。本当は見えないのだけれど、その想いが伝わる。そして、その想いの強さが、涙を流させたのだろう。 (P)

共益法人
ベルリン中央学園補習授業校

**Zentrale Schule für
Japanisch Berlin e.V.**

校舎 : c/o Comenius-Schule
Gieselerstr. 4
10713 Berlin

電話 : +49(0)30 8639 4196
(火、金の授業時間のみ)

FAX : +49(0)30 8639 4197

Eメール :
webmaster_chuogakuen_de
@yahoo.co.jp

ホームページ :
www.chuo-gakuen.de